

3 頁 脚注*3 [以下のように追記]

(誤) …… この保存場所をクリップボードと呼んでいる。

(正) …… この保存場所をクリップボードと呼んでいる。ただし、mac OS では、`scan` の引数として、"`clipboard`"の代わりに `pipe("pbpaste")`を指定する必要がある。

27 頁 下から 12 行目

(誤) 次にサンプルサイズを $N=200$ と増やし、……

(正) 次にサンプルサイズを $M=50$ と増やし、……

28 頁 図 2.10 のキャプション

(誤) $N=200$

(正) $M=50$

37 頁 上から 7 行目

(誤)
$$M = \begin{pmatrix} x_{11} - \bar{x}_1 & \cdots & x_{1m} - \bar{x}_1 \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ x_{n1} - \bar{x}_n & \cdots & x_{nm} - \bar{x}_n \end{pmatrix}$$

(正)
$$M = \begin{pmatrix} x_{11} - \bar{x}_1 & \cdots & x_{1m} - \bar{x}_m \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ x_{n1} - \bar{x}_1 & \cdots & x_{nm} - \bar{x}_m \end{pmatrix}$$

47 頁 表 4.1 の関数名 `runif` の用途

(誤) 一様分布の発生

(正) 一様分布に従う乱数の発生

48 頁 上から 2 行目

(誤) デフォルトでは、 $(0,1)$ 上の一様乱数を発生させる。

(正) デフォルトでは、 $[0,1]$ を台を持つ一様分布の密度関数である。

51 頁 下から 1 行目

(誤) (4.9) が確率関数になっていることを示せ.

(正) (4.9) が確率密度関数になっていることを示せ.

55 頁 上から 3 行目

(誤) X の確率分布を指定するとモーメントが計算できるが, 逆に, 全てのモーメントを決めると X の確率分布が定まることが知られている.

(正) X の確率分布を指定するとモーメントが計算できるが, 逆に, 全てのモーメントが存在し, $\sum_{k=0}^{\infty} E(X^k) \frac{z^k}{k!}$ の収束半径が正であれば, X の確率分布が定まることが知られている.

95 頁 上から 7 行目

(誤) $\dots \log 1=0$ がわかる. また,

(正) $\dots \log 1=0$ がわかる. 以下, 簡単のため, $\varphi(t)$ が 3 回微分可能と仮定する(定理 14 は $\varphi(t)$ が 2 回連続的の微分可能であれば成り立つ). また,

159 頁 上から 3 行目

(誤) `> y <- 2*x-x^2 + rnorm(length(x), 0, 0.1)`

(正) `> y <- x^3-3*x + rnorm(length(x), 0, 0.1); print(cor(x, y))`

165 頁 下から 2 行目

(誤) $I^2 = \left(\int_{-\infty}^{\infty} e^{-ax^2} dx \right) \left(\int_{-\infty}^{\infty} e^{-ax^2} dy \right) = \dots$

(正) $I^2 = \left(\int_{-\infty}^{\infty} e^{-ax^2} dx \right) \left(\int_{-\infty}^{\infty} e^{-ay^2} dy \right) = \dots$